

富山県 公文書館だより

第78号 2026. 2. 2発行



「我家の戦災絵史(苦悩からの脱却の記録)」(丹羽家文書 当館蔵)

富山大空襲の記憶

昭和二十年（一九四五）八月二日〇時三十六分より約二時間にわたり、富山市中、心部は米軍の爆撃機B29による空襲を受けました。この空襲により市街地の九九・五%が焦土と化しました。

上の史料は、富山大空襲前後の様子を描いた記録画です。大空襲から十年余りたった昭和三十一年に、当時の記憶を元に丹羽隆一氏によって描かれました。

当史料は四部で構成されています。

第一部には罹災前の家の様子、配給など戦中期の生活、空襲に備えて防空演習をしている様子などが描かれています。第二部には家財や家族を事前に郊外へ疎開させたことや空襲初期の様子、第三部には空襲による罹災の様子、第四部では戦後の丹羽家について描かれています。

それによると、丹羽家は昭和二十年三月には家財や家族の疎開を始めており、疎開先も転々と移動していることが記されています。しかし、空襲時には父と妹との三人で自宅にいたため、その時の体験がこの記録画につながりました。

昭和十九年十一月以降、日本に対する本土空襲が本格的に行われるようになり、次第に地方都市も攻撃対象となっていました。そのような中で、七月三十一日に空襲予告ビラがまかれており、八月一日から二日にかけて、長岡・水戸・八王子とともに富山市も空襲を受けたのです。

（縦28.0 cm × 横69.0 cm）

開館四十年目を迎えて

館長 宮脇 健一

昨年十一月、当館が大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館に富山県内での開催を要望しておりましたアーカイブズ・カレッジ短期コースが実施されました。この開催は、令和五年の置県百四十年にあたり当館から公文書保存・利用関係機関に記念事業への協力を依頼させていただいたうちのひとつで、県内でアーカイブズの専門的な学びができるよう人材育成の観点から要望し実現したものです。当館からも、この機会に複数の職員を受講させていただきました。

国文学研究資料館の皆様、短期コース施設見学先の高岡市立博物館等の高岡市の関係の皆様、また、関連開催の市民向け講演会における講師及びその所属機関の水見市立博物館の皆様、この場をお借りしてお礼申しあげます。

さて、富山県公文書館は今年、開館四十年目を迎えました。当館では、設置された昭和六十二年から年度ごとに「富山県公文書館年報」を作成し、利用状況等を公開してきましたので、各年報と今年度途中までの実績の累計を計算してみました。

入館者数は、昨年中に累計十四万人を超えました(年平均では約三千六百人となります)。この間、当館をご利用くださいました皆様にお礼申しあげます。このう

ち、団体による見学等は累計二万人超で、開設後十年間に年平均約一千四百人と集中しております。また、歴史講座や古文書教室など講座等利用は累計三万人超(年平均約八百人)のご来館です。講座等利用入館者数は、やはり新型コロナウイルス感染症が流行し五類感染症になる前に概ね相当する時期(令和二年度から四年度)は年平均約二百人、令和五年度以降も募集定員を少なく設定したことにより年平均約五百人となりましたが、この時期からオンライン配信も開始しております。

閲覧件数は、累計六万六千件超(年平均約一千七百件)となります。レファレンスは、累計三千八百件超(年平均約一百件)をお受けし、「史資料に関すること」が累計約一千一百件と最も多く、「古文書の解説・解説に関すること」が累計約九百件、「富山県史、市町村史、他都道府県史に関すること」が累計約七百件と続きます。これからも、お知りになりたいことがありましたら、お気軽におたずねください。

これら当館の実績数も業務統計が保存・利用できたからの内容です。記録保存の大切さの簡単な例にあたります。節目の年を迎えた記事作成用に業務統計が作成・保存されてきたわけではありませんが、公開されている記録の利用目的は自由であり、今回利用したところでは、富山県公文書館では、引き続き、閲覧に供している古文書・近代等資料や地方自治法施行前公文書を利用する方や展示を見学する方をお待ちしておりますので、是非ご来館ください。



富史料協だよりー令和7年度視察研修ー

十一月六日(木)に石川県での視察研修を実施しました。石川県立図書館と金沢大学資料館を訪問見学し、十四機関、二十二名の参加がありました。

石川県立図書館では、十二のテーマを設定し、十進法分類を超えた独自の配架による本との偶然の出会いをいざなう工夫や、本を読む・探す以外の目的でも図書館を訪れたいと思うような第三の居場所づくりなど、新しい視点からの取り組みを興味深く学ばせていただきました。

また、普段入ることができない公文書専用書庫を見学させていただ



石川県立図書館

き、大変貴重な経験となりました。金沢大学資料館では、常設展示での解説や収蔵庫見学を通して、長い伝統のある金沢大学および前身校からの貴重な資料をはじめ、多岐にわたるコレクションが大切に保管されている様子を知ることができました。特に明治時代の医学関係の標本や教材をはじめとする貴重な資料を多く目の当たりにしました。また、学生が展示企画を経験することが、授業の一環としてできる施設としての役割も果たしていることがわかりました。

今回の視察研修では、行政機関の職員が利用する機会の少ない大学アーカイブズを初めて見学させていただいたこともあり、参加者にとつて初めて知る内容が多く、参加者一同多くの示唆を得ることができました。大変興味深く、有意義な学びの機会となりました。



金沢大学資料館

アーカイブズ・カレッジ短期コース受講

十一月十日(月)～十五日(土)の六日間にわたり、高岡市を会場として国文学研究資料館主催のアーカイブズ・カレッジ短期コースが開催されました。毎年全国を巡って開催されているこの研修は、今年も富山県が誘致し、それを受けての開催でした。地元高岡市の図書館・博物館・美術館、そして県では富山県公文書館四名、県立図書館二名、高志の国文学館一名が参加しました。担当の方は、例年になく地元からの参加者が多く、喜んでおられました。

六日間の講義等の内容は初日の開講式に続き、現代のアーカイブズとアーキビストの役割、アーカイブズ資源論、アーカイブズの保存環境と劣化損傷の予防、アーカイブズの保存修復、アーカイブズ・レコード・マネージメント論、アーカイブズと情報コントロール、民間アーカイブズ・コントロール論、アーカイブズの整理と目録編成、自然科学系のアーカイブズ、地域とアーカイブズ、アーカイブズの管理と利用(施設見学)、アーカイブズの公開と普及活動、総括討論

があつて最後に閉講式で終了しました。

最近、アーキビストの研修では行政の公文書を扱う傾向が強かったのですが、今回の研修では古文書等を扱ったものが比較的多く、個人的にはその意味で多少の安堵感がありました。各講義では最新の研究成果をもとに、先生方が限られた時間のなかでパワーポイントや資料を駆使して丁寧な話をしてくださいました。研修のなかでは難しい専門用語やカタカナ表記も多々あり、苦しい場面もありましたが、終わってみれば新たに得た知識も多く、幾度となく目から鱗が落ちました。おそらく研修以前の自分と比較してブラッシュアップできたことはまちがいありません。今後は学んだことを日々の業務に少しでも生かせればと思っています。



最近の寄贈・寄託史料状況

近年、頻発する自然災害の影響や、代替わり・家じまいなどにより貴重な地域資料である古文書等の散逸が一層深刻化しています。当館においても、年々寄贈・寄託史料の受け入れが増加しています。令和五年度は、寄贈文書七件・寄託文書三件、令和六年度は、寄贈文書八件・寄託文書一件の受け入れがありました。今年度は、令和七年十二月現在までに、寄贈文書十一件、寄託文書二件を受け入れています。寄贈・寄託いただいた史料は、当館の書庫において温湿度管理のもと適切に保存管理するとともに、常設展や企画展で展示することにより、多くの県民の皆様のご覧に供したいと考えています。

令和七年度の特徴は、当館の企画展を契機に寄贈していただいたことです。久保家文書は、令和七年度企画展「行かんまいけい富山の博覧会」に展示させていただいた第1回ジャパンエキスポ富山'92

関係資料です。博覧会開催記念のブック型ケース入り二枚一組で二千部限定販売された「特別記念入場券」や第1回ジャパンエキスポ富山'92に係る冊子、シンボルカラーの栓抜き四点は、当時を懐かしく偲ぶことができ貴重な資料です。同様に企画展を契機に、多くの関連資料を針山家文書として寄贈していただきました。企画展開催後にも坂井家文書として「県民公園太閤山ランドJETトレインエキスポとやま博利用乗車券」を寄贈していただきました。

当館では、レファレンスや古文書の解説等にご利用いただく中で、貴重な史料の寄贈・寄託を受けることも多くあります。また古文書の消失・散逸・劣化を防止するための支援活動も行っています。貴重な史料を適切に保存管理するとともに、広く県民の皆様にご紹介し、活用できるように努めていきたいと思っております。

令和7年度 富山県公文書館企画展

行かんまいけ～

富山の博覧会

10月2日(木)から11月3日(月・祝)にわたり企画展を開催しました。「大阪・関西万博」(正式名称:2025年日本国際博覧会)の開催に合わせ、明治から平成にかけて富山県内で開催された6つの博覧会・共進会に焦点をあて、時代の背景を反映した目的や内容、成果などを紹介しました。当館所蔵の史資料を中心に、富山県立図書館や県民公園太閤山ランドからお借りした資料と合わせて展示しました。

明治・大正期

産業振興をめざした博覧会

明治・大正期の博覧会として、明治三十三年(一九〇〇)第七回関西二府十五県連合共進会と、大正二年(一九一三)富山県主催一府八県連合共進会を取り上げ、近代化を進めていた日本の中で富山県の産業振興の様子とその背景について紹介しました。明治三十三年の博覧会では、「第七回関西府県連合共進会規則改正」(富山県報)当館蔵)から繭や茶など当時の出品物や、銅版画の「第七回関西府県聯合共進会場之全図」(富山県立図書館蔵)より会場が賑わっていた様子を紹介しました。大正二年の博覧会では、同日に富山県協賛会から発行された二種類の『富山県案内』(岡崎家文書及び黒田家文書・いずれも当館蔵)を比較展示し、富山県を紹介するために制作された本を展示しました。

昭和初期

東亜を意識した博覧会

戦争の気配が濃くなる戦前の日本において、東亜を意識し、貿易

振興により経済発展に努めようと昭和十一年(一九三六)に開催された日滿産業大博覧会を取り上げました。「博覧会開催地に関し高岡市長と県知事の覚書」(当館蔵)より、開催をめぐり県と高岡市との間で取り決めがあったことを紹介しました。また、「四季 富山おどり」パンフレット(岩田家文書・当館蔵)から、当時の余興として富山おどりが演芸館で披露されたことを紹介しました。

戦後復興博覧会

戦後、復興の証として昭和二十九年(一九五四)に開催された富山産業大博覧会を紹介しました。「富山産業大博覧会概況説明書」(富山県所蔵)では、日本が独立を回復したとはいえ、占領政策やアメリカの影響を受けている様子を紹介しました。また、「富山産業大博覧会々場絵葉書」(海内家文書・当館蔵)より、博覧会場や復興していく街並みの様子、「富山市旅館案内図」(富山県立図書館蔵)より県外からの観光客受入のために制作された市内宿泊施

設地図も紹介しました。また、パネル展示により、昭和二十六年に開催された高岡産業博覧会も紹介しました。

昭和後期・平成初期

21世紀に向けての博覧会

富山県の自然や郷土、伝統を慈しみつつも、様々な分野で21世紀という新たな時代の到来を待望する気運の中で開催された博覧会として、昭和五十八年(一九八三)富山県100年記念にっぽん新世紀博覧会と平成四年(一九九二)第1回ジャパンエキスポ富山'92(通称JET)を取り上げました。日本新世紀博覧会は、置県百年記念事業の一環として開催されましたが、「置県百年記念タイムカプセル埋設工事設計図」及び「置県百年タイムカプセルとやま1983。そのくらしと姿」リーフレット(いずれも富山県所蔵)より、百年後の県民へのメッセージが込められたタイムカプセルが埋設されたことを紹介しました。また、JETでは、BI版「公式ポスター」(当館蔵)が制作さ

れPR活動の様子や現在のシーズンパス券に相当する「JETワールドカード」(富山県所蔵)が導入され、何度も繰り返し入場できるように工夫がなされたことを紹介しました。運営の面では、「エキスポとやま博JETメイト大募集(募集要項)」や「第1回ジャパンエキスポ富山'92JETハーティ(ボランティア)募集要項」(いずれも富山県所蔵)より、多くの県民の力によってJETが運営されたことを紹介しました。



展示説明会の様子

講演会

十月二十六日(日)、富山ジャパ

ンエキスポ協会事務局OBである上野彰氏、久保真人氏、広沢久也氏、堀口正氏の四名をお招きし、「ジャパンエキスポ富山'92成功への道」疾風怒濤の日々の先に見えたもの」と題して座談会形式でご講演いただきました。

始めに、講師の方々、が当時携わった業務について、久保氏から出展、上野氏から会場建設、堀口氏から催事、広沢氏から運営の面より、スライドを交えて説明していただきました。会場建設では、県民公園太閤山ランドで開催された二つの博覧会の上空写真を比較し、具体的にどの部分がJETで造られたのか説明があり、出展では、JETのテーマ「内と外」をJETパピリオンなどの屋内展示といきいき広場などの屋外展示



上野 彰 氏(右側)
久保 真人 氏(左側)



広 沢 久 也 氏(右側)
堀 口 正 氏(左側)

で体现されていたこと、催事では、海外から招かれた団体が県内でホームステイをしたことやダブルタッチ・ジャンプ・ロープの小学校での普及の取り組みなど、県内で交流が深められたことなどを話していただきました。また、運営では、JETメイト制度やボランティアであるJETハーティなど多くの県民の支えがあったことが分かりました。

JETの成功と、その影響について、県道307号線の開通が富山高岡間のアクセスの向上に寄与したことや、音響や照明など催事の技術が県内に浸透したことなどが窺えました。

また、これからの富山県のために大切な視点として、準備期間を

確保して物事に臨んだり、他者の喜びを大切にしたり、多文化共生の視点の必要性や記録としてだけではなく、未来への助言として歴史を活用することができればよいと述べられました。

聴講者からは「当時のことを思い出して懐かしく感じた」、「関係者の皆さんのご苦勞がよく理解できた」などの声が聞かれ、大好評でした。

企画展観覧者からの感想

- ・ どんな時代であつても皆が一同に会する機会は、開催する側も参加する側も熱が入ると感じた。
- ・ 戦前、戦後の博覧会のこととも知ることができ、当時の時代背景や開催意図を考えることができ、興味深かった。

この他にも、たくさんのご意見・ご感想をいただきました。多くの皆様のアンケートへのご協力、誠にありがとうございました。



上記のQRコードからパンフレットの掲載ページにアクセスできます。

令和七年度
古文書教室
(入門・初級コース)

当館では今年度、入門コースを八月から九月にかけて三回、初級コースを十月に四回にわたり開催しました。

入門コースは、当館史料調査専門員の寺井柚美、菖池由美子、高森邦男が講師を担当しました。当館所蔵史料を題材に古文書における年月日や人名、地名などを読みながら、くずし字の基礎知識の習得を目指しました。十村文書の先祖由緒書や年貢皆済状などを読み、江戸時代における越中の社会の一端を紹介しました。当館では、YouTubeにも当館制作の古文書教室の動画をあげています。YouTubeと合わせて学習されている受講者の方々も多く、意欲的に取り組んでおられました。

初級コースは、昨年度に引き続き、越中史壇会会員の宮本幸江先生を講師にお招きし、「富山藩郡奉行月番留」を読む」と題して四回にわたり講義をしていただきました。今回は、郡奉行の職務に係る史料を中心に、古文書を読み解きながら、天保期の世相や農民支配の仕組み、富山藩における郡奉行の役割について学びました。第

一回「植付草修理見分」の学習では、郡奉行鑄木数右衛門が支配下の村々の田植や除草の状況を見廻るための日程調整、村々の実情について解説していただきました。当時の婦負郡・上新川郡の絵図を用い、古文書に出てくる見分した村々の位置などもわかりやすく説明していただきました。

毎回の講義において、文字の解説やくずし方の解説に留まらず、文章中に出てくる興味深い内容やその背景まで丁寧に説明していただくことにより、興味深く江戸末期の富山藩の様子を学べました。受講者の方からは、「読み下すだけでなく、領内の様子や藩政の実情がとてよく分かった」、「先生の解説で郷土史を当時の人々に近い目線で学ぶことができた」などの感想が寄せられました。



宮本幸江氏と初級コースの様子

令和七年度
第一回古文書調査員会議

令和七年度の第一回古文書調査員会議を、七月十七日(木)当館研修室にて開催しました。

当館では、県内で古文書の調査活動に関わっておられる十二名の方々に古文書調査員を委嘱し、年二回の会議での情報交換を通して古文書の保存活用などについて協議しています。昨年度から引き続き在任の十一名の方々に加え、今年度は新たに、松田昭治氏に砺波地区の古文書調査員として活動していただいています。

会議ではまず、当館より古文書調査員制度の趣旨・制度の説明があり、次いで、今年度実施予定の二十一件の古文書実態追跡調査の概要を報告しました。この調査は、古文書の所蔵者に現在の保存状況などをお尋ねするものです。

続いて、新川・富山・高岡・砺波各地区の調査員の方々からの報告がありました。令和六年一月一日に発生した能登半島地震による被害が大きかった氷見市では、肝煎家文書を収蔵していた建物について、地震被害の懸念から文化財審議会での市指定文化財候補に挙げたいという意見が述べられました。

た。小矢部市では所蔵者が不在となったため、宮永家文書は小矢部市で預かるという方針になったことが報告されました。

古文書の保存管理の面においては、市町村によっては古文書を収蔵する施設や担当窓口がないこと、古文書の燻蒸について現在薬剤が手に入らないため、図書館の閉架書庫においてある状況など新たな課題が生じていることも話題になりました。また、文化財レスキューの周知が行われず、古文書散逸の危機への懸念も指摘されました。最後に、殺虫・殺カビのための燻蒸薬剤エキヒュームSの製造停止により、別の薬剤ヴァイケーンへの変更を検討中であることについて当館より説明を行いました。第二回の古文書調査員会議は、二月十二日(木)に開催する予定です。

調査員名簿 (敬称略)

| | |
|------|--------|
| 新川地区 | 飯村 滋均 |
| | 轡田 達行 |
| 富山地区 | 加藤 俊子 |
| | 五十嵐 一雄 |
| 高岡地区 | 平井 心清 |
| | 兼子 亮介 |
| 砺波地区 | 五十嵐 介磨 |
| | 仁ケ竹 瑞明 |
| | 鈴木 紘正 |
| | 東出 枝昭 |
| | 松田 昭 |

令和七年度
下半期展示

「戦争の足跡」

戦後八〇年の今、富山県公文書館所蔵史料から、満州事変や日中戦争、太平洋戦争を振り返る展示を開催しています。「昭和七年満州事変 上海派遣軍記念写真帖」（上野家文書）から、富山歩兵第三十五連隊も動員された第一次上海事変の様子を展示しています。日中戦争関連では、功労者に贈呈された「志那事変従軍記章」（立田家文書）や戦地から差し出した軍事郵便為替を本国で受け取ったことを証明する「軍事郵便為替金受領書」（南部家文書）などを展示しています。また、富山大空襲を 実際に罹災した方によって約十年後に描かれた『我家の戦災絵史（苦悩からの脱却の記録）』（丹羽家文書）では、富山大空襲の悲惨さが窺えます。



「戦争の足跡」の展示

（一九三四）の台風による災害、富山県大水害の概況」などから、治水事業が必要だった実態を紹介しています。このほか、上半期から引き続き「富山県庁舎の変遷」も展示中です。

好評だった富山県の歴史に関連したクイズも実施中です。今回は「富山県クロスワードパズル」と題し、難易度が少し高めな富山県の歴史に関連する問題を出題しました。解いていただいた方には、素敵な景品をプレゼントしております。

展示期間は、三月二十五日（水）までとなっております。是非、ご来場ください。

「子ども考古学講座」 昔の文字の読み書き

今年度も他館と連携し、小・中学生を対象とした史資料ふれあい事業を実施しました。

夏休み期間中、富山県埋蔵文化財センターと連携し、小学生対象の「子ども考古学講座」を行いました。

富山県公文書館からは、「昔の文字の読み書き」と題し、体験活動を行いました。「徳川家康書状」（浅井氏収集文書・当館蔵）などの古文書を紹介した後、割り箸袋など身近なもので目にしたことのある昔の文字の読み方クイズを行いました。クイズでは、子どもたちは積極的に手を挙げて答えてくれました。最後に、「かな文字一覧」（江戸時代の古文書を読むシリーズより引用）を使って、自分の名前を江戸時代に使われていた文字で書くことに挑戦しました。普段書きなれない文字に悩みながらも、子どもたちは真剣に取り組みんでくれました。子どもたちからは、「昔の文字を書く活動を通して、公文書館（公文書館）に対する興味や深まりました。」「昔の文字の読み書き」など、感想がありました。



「子ども考古学講座」の様子

「指令！DIGITAL」逆襲せよ。 富山県公文書館の「ミッシェン」その式

十二月二十一日（日）、高志の国文学館において、中学生向けの探究活動「指令！DIGITAL」逆襲せよ。富山県公文書館の「ミッシェン」その式」を行いました。

今回の「ミッシェン」では、「富山県設置の太政官達」（当館蔵）、「富山県庁竣工式招待状」（当館蔵）、「富山県庁員のラジオ体操」（小又家文書・当館蔵）の三つの史料から、受講者は興味のある史料を選び、インターネットを利用せず富山県立図書館からお借りした本などを使って、調べ学習を行いました。今回は、保護者の方々にも探究活動に参加していただきました。ワークショップに解説文を記入したり、分かっただけをまとめた後、発表活動を行いました。

（参加者の感想（中学生より））

- ・普段はスマートフォンを使って調べているけれど、使わなくても楽しかった。
- ・富山の歴史に興味はなかったが、本で調べていくうちに楽しくなりました。
- ・また、保護者から「中学生が短い時間で深く調べていることに感心した」と感想が述べられました。



探究活動の様子

▶ YouTubeにて 古文書教室入門コースの動画を配信しています

富山県公文書館のYouTubeアカウントにて、令和五年度「古文書教室入門コース」の内容をもとに制作した十分程の動画（全七回）を配信しています。古文書を読む際の基礎知識や頻出する日付・人名のくずし方などを紹介しています。



富山県公文書館
YouTube アカウント

https://www.youtube.com/channel/UCxaz4R4rE_DVo5vnEoxzBg

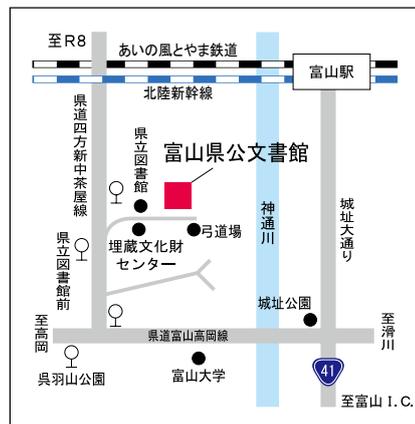
「富山県公文書館文書目録 歴史文書三十九」発行予定

令和八年三月に目録の三十九集を発行する予定です。
当目録には、当館に寄贈された石川家文書、稲垣家文書、田中家文書、藤野家文書、松長家文書、並びに複写採録資料の酒井家文書、専龍寺文書を収録しました。
石川家文書は加賀藩政中期まで射水郡の十村役を務めた石川家伝来の史料群ですが、後に医業に転じたので、十村役儀に関する史料のほか医学書なども多数揃っており貴重です。稲垣家文書は明治期の自由民権運動家、また自由党系の政治家として活動した稲垣示に関する史料群です。
藤野家文書は新川郡古寺村（現、富山市）の肝煎文書で、村御印や鷹師見合札などがあります。
酒井家文書は新川郡上滝村（現、富山市）の肝煎文書で、市場の機能をもつ同村の様子が窺えます。
その他の古文書も地域の歴史を伝える貴重な史料群です。

令和八年度歴史講座について

富山県公文書館では、令和八年度も歴史講座を開講します。五月六月にかけて、様々な時代や分野の専門家を講師にお招きし、全五回シリーズで富山県の歴史を学びます。歴史講座は県民カレッジ連携講座です。
対面講座（定員五十名）に加え、事前申し込みによるオンライン配信も実施予定です。皆様のお申し込みをお待ちしています。
日程や内容、申し込み方法や申込期間など詳細については、三月中旬までに公文書館や県内各図書館等で配布されるチラシ、当館ウェブサイトやSNS等でご確認ください。

利用案内



開館時間

月曜～金曜 午前九時～午後五時

休館日

土曜日、日曜日、国民の祝日・休日

年末・年始（12/28～1/4）

公文書館だより 第七十八号

令和八年二月二日発行

編集・発行

富山県公文書館

〒九三〇〇一〇一五

富山市茶屋町三三二

TEL 〇七六四三四〇五〇

FAX 〇七六四三四〇九三



ウェブサイト
<https://www.pref.toyama.jp/1147/kensei/kouhou/1147/>

X(旧ツイッター)にて 情報発信しています

富山県公文書館の業務の紹介や主催行事（企画展、歴史講座、古文書教室など）に関する情報を発信しています。ぜひ、ご覧ください。

富山県公文書館Xアカウント



<https://x.com/ToyamaPrefArch>